

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年12月12日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890300191
事業所名	グループホーム薬師谷マナー
(ユニット名)	岩戸
記入者(管理者)	
氏 名	中村 沙知
自己評価作成日	令和1 年 11 月 11 日

【事業所理念】 その人らしさと笑顔あふれる家業 師谷マナー	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・目標 虐待防止（拘束）について全員が理でき高齢者の尊厳を守り支援出来る。→職員で虐待拘束委員会を設置しメンバーに新人職員を含んだ。委員会で話し合ったことは回覧している。職員の利用者さんに対する言葉遣いが少し変わった。・プランに沿った実践ができて、記録（気づき）が書けるようになる。→勉強会でプランの大切さや意味を理解してもらい実践するよう取り組んでいる。また記録の勉強会も開いたり記録を管理職がチェックし個人的にアドバイスしている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は法人が変わり2年目を迎えており、利用者がより安心して暮らせるようにするため、新管理者のもと、職員が一丸となり利用者本位の支援に努めている。定期的な茶会等を通じて、利用者が地域と交流する機会が多く、地域と関わりながらの生活を継続している。開設後15年経過の事業所は地域に浸透し根づいている利点を活かし、関係機関と連携し地域活動を行う等、ケア拠点としての取組みを期待したい。
-------------------------------------	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の関わりの中でニーズを聞き実践するよう努めている。	○		○	職員は、日頃のコミュニケーションを大切にしながら利用者の思いや希望等を把握するよう努めており、介護計画ではそれを反映させた上で支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	行動や表情、お元氣だった頃の好みを把握し本人の立場になって検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時にお聞きするように努めている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の思いや行動を毎日記録し共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いに耳は傾けているが、思い込みや先入観で見落とししていることもある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	契約時や家族面会時、本人に聞きスタッフ間で共有している。			○	入居時に利用者や家族から生活歴や性格、こだわり等を聞き情報シートにまとめている。入居後に収集した情報も追加記録し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	日々の生活や関わりの中で把握するよう努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の記録や関わりで理解しスタッフ間で都度都度情報共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	行動や、本人の発言で理解するよう努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	申し送りや24時間シート申し送りノートの確認で把握している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	その人らしさを失わずより良い暮らしが出来るよう本人の思いを把握し検討している。			○	毎月のミーティングやユニット会議で利用者の意向を確認し、利用者に必要な支援について話し合っている。利用者のできることに視点を置き、介護計画に反映させながら取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティング時にスタッフ同士で話し合い、その人に今必要な支援を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容を実践しミーティングを行い課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ミーティングで話し合い本人の思いに添えるような内容になっている。				釣りやゴルフ等利用者のしたいことなどを、本人や家族に確認し、職員等関係者を交えて話し合い、それぞれの意見やアイデア等を反映して介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意思を尊重し、家族さんの意見を聞きそれぞれの意見やアイデアを反映し作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	好みだった服を着たり出来るだけ慣れ親しんだ暮らしを遅れるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんと一緒に行事に参加してもらったり地域の方にも協力をお願いしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ミーティング時や介護計画書を見て把握理解、共有に努めている。			○	ミーティング時に利用者一人ひとりの介護計画を確認し、職員間で共有している。介護計画に沿ったケアが実践できているかは、職員間で話し合うようにしているが、時にはできていないこともあるため、今後は職員全員で徹底し取り組んで欲しい。利用者の言葉や表情等を記録しているが、利用者によっては詳細に記録されていないため、今後は全ての利用者の様子を分かりやすく記録して欲しい。また、利用者一人ひとりに対する職員の気づきや工夫も記録しているが、情報量が少ないため、今後は記録の充実に努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画に沿って実践をしミーティング時に話し合い課題を明確にし日々の支援に繋げる努力は行っているが、時々出来ていないこともある。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	一人一人個別に記録は残しているが細かく出来ていない利用者さんもある。			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	アイデアや工夫の記録は少ない。			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ミーティング時に行っている。			○	介護計画は6か月ごとに見直ししている。毎月ミーティングやユニット会議でモニタリングを行い、現状確認をしている。利用者の状態に変化が生じた場合には、随時家族と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一回は必ずミーティングを行い現状の確認に努めている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の思いを聞いたり家族さんと連絡を取り状態に合わせ都度見直しを行っている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的に行っている。緊急時は都度話し合い対応している。			○	毎月ユニット会議で利用者一人ひとりの状態等について話し合い、課題の解決に取り組んでいる。緊急案件がある場合は、その都度当日の勤務者で話し合っている。参加できない職員には、議事録を回覧・確認し、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	一人一人が発言出来る雰囲気や場作りをし活発な意見交換が出来ている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日や日時、場所は工夫しているが勤務により参加出来ないスタッフもいる。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録、口頭で伝えるようにしている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを記入し共有している。			○	朝礼や申し送りノートを活用し、確認後に押印する仕組みになっており、職員間で共有している。押印はフロアリーダーが確認し、できていない職員には口頭で再確認を促して、職員全員が確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝礼を行ったり申し送りノートの確認口頭でしている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	一人一人会話の中で聞くようにしているが業務が優先になってしまいかねることが出来ないこともある。				職員は日々の生活の中で利用者が自分で決められるよう選択できる機会を提供しており、利用者は時代劇を観たり、家族に手紙を書いたりと自由に過ごしている。職員は利用者の性格や生活歴などこれまでの情報を活かした会話を心がけ、活き活きとした言動や表情を引き出せるよう声かけや雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時には衣服を選んだり、おやつを選んだり買い物に行ったりと自己決定出来る場面を多く作る努力はしている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人に合わせ分かりやすい言葉や選びやすい状況を作り納得してもらえよう支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	その人のペースで生活してもらうようにしているが入浴はほとんどがスタッフの都合になっている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	その人の好みに合わせ支援言葉かけや雰囲気は大切にしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	顔の表情や反応をよく観察し意向に沿った支援に心掛けている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	その人らしさを尊重し日々人生の先輩という念頭に置き言葉掛けや態度は常に意識し行動している。	◎	○	○	職員は研修で学ぶ機会を作っており、利用者に対しては、人生の先輩であることを念頭に置き支援に取り組むよう意識している。利用者の居室に入る際のノックと声かけを必ず行い、入浴や排泄時等には羞恥心に十分配慮して対応している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	一人ひとりに敬意を払いさりげない声かけや対応を行っている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	プライバシーに配慮し入浴時にはタオルで隠したりと羞恥心を守りながら介助を行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には必ずノックを十分に配慮はしているが他利用者さんが時々他居室に入っているのだから十分気をつけたい。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し厳守して守っている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	その人の残存機能を生かし、いつも利用者さんは人生経験豊富な先輩としてお互い助け合っているという関係性を大切にしている。また感謝の気持ちは忘れずにねぎらいの言葉は必ずかける。				利用者同士、車いすを押したり、みかんの皮をむいて渡したりと思いやりの心を持って助け合っている。必要な時には職員が自然な形で間に入り仲をとり持っている。現在はトラブルになることもなく平穏な状況である。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	孤立せず支え合って生活することの大切を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	仲の良い利用者さん同士が同じソファーで過ごせるように配慮したり孤立しそうな利用者さんには少人数レクと一緒に参加してもらったりと常に考え機会を多く作れるよう行動している。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きそうときや起きたときはスタッフが間に入り対応している。居室へ誘導し足り容赦さんが不安にならないようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族や本人にお聞きしているが全てを把握はできていない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	把握出来ていないところもある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	外出出来る方にはできるだけ支援するようにしているが満足のいくものではないと思う。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時にはお茶を出しリビングや居室でゆっくり過ごして頂けるように対応している。またスタッフは気持ちの良い明るい挨拶を心掛けている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	希望を訴えられる人への対応は出来るだけ十何位に取り組んでいるが、重度化されている利用者さんの対してはあまりできていない。またスタッフの人数の都合で出来ない日もある。	○	○	△	毎月ドライブや買い物等、利用者の要望に応じて対応しているが、外出の機会が少ないため、重度の利用者を含め、散歩等外出する機会が増える取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力を得られていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	体調をみてひなたぼっこしたりするにはしているがなかなか外出はできない。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	協力していただけるかぞくさんには一緒に外出支援をおこなってもらっている。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修等で学び一人ひとりの状態や状況に合わせケアを行っている。				アセスメントで利用者のできることを把握し、寄り添い見守りながら支援しており、包丁で野菜を切る等自分でできることをしてもらい、利用者一人ひとりの心身機能の向上につながるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者一人一人に合わせ残存機能を生かし無理のない程度で出来る限り活かせるよう支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	その人の得意なことや苦手なことを理解し役割を持って頂き声掛けや見守りに対応したり一緒に行うようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	出来る限り把握している。				利用者は、毎日掃除機やモップをかけたり、ゴミ収集や食器拭きを手伝ったりと一人ひとり役割や出番があり、職員は感謝の言葉を伝えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	一部の利用者さんになるが役割をもっていただき感謝の言葉を伝えるようにしている。またその人の好きだったことや得意なことを理解し一人ひとりに楽しみごとや出番を作ってもらえるよう取り組んでいるが実行出来ていない部分もある。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	行事ごとには地域の方々に参加して頂き出来る限り出番や張り合いが持てるよう支援している。				

愛媛県グループホーム薬師谷マナー

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	その人らしさや好みを把握している。				自分で身だしなみを整えられる利用者は起床後、鏡を見て髪を整えたり、男性利用者は髭を剃ったりしている。職員は剃り残しなどをさり気なく観察しながら一人ひとりの身だしなみに配慮している。重度の利用者を含め、家族の協力のもと、訪問美容を利用してお気に入りの髪型に整える等、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	好みを叶えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の好みを理解し本人と一緒に選んだりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に合わせたおしやれを本人の好みに合わせ楽しんで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを大切にさげなくカバーするよう声かけ等いつも心がけている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族さんの協力のある方は馴染みの理髪店へ行って頂いているが、そのほかの方は近隣の美容室へ行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	近隣の美容師さんにホームへきて頂きカットなど行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	脳の活性化、口腔内の自浄作用免疫力の向上、楽しみ等理解し大切にしている。				献立は法人の調理員が作成し、それを職員がアレンジしている。配達以外の不足品を利用者と一緒に買い出しすることがある。料理から片付けまで手伝う利用者もいる。利用者自身が白菜の漬物を作る等、季節の野菜を使ったメニューも提供している。茶碗や湯呑み等、自分専用のものを使用している。職員も同じ食卓を囲み、会話やサポートしながら一緒に同じものを食べている。重度の利用者を含め、調理の音や匂い等の雰囲気を楽しむながら、食事ができるのを待っている。2か月ごとに栄養価計算を行いグラフにして、栄養に偏りがないよう話し合い、利用者がバランス良く栄養が摂れるように努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	その人の出来ることを把握し下ごしらえや後片づけ等一緒に行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	調理や後片づけ等を行うことで利用者の自信や達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	理解し把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は決まっているが季節の物を取り入れたり昔懐かしいおやつを手作りしたりと工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりと器の工夫等)	○	一人ひとりの状態に合わせとろみやきざにミキサー食で対応している。また器を軽い物や小鉢にして理と見た目の工夫は行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	慣れた物を使って頂いている。また状態に合わせ使いやすい食器を用意している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	同じ食卓テーブルを囲み一緒に食べながら食事介助の必要な方の隣に座ったり混乱される方にはさりげなくサポートするよう心掛けている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	本人の好きなメニューや好物が出ているときは声かけを行っている。また食材などを伝えるようにしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	摂取量が少ないときは記録にチェックし栄養補助食で対応している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	状態に合わせ本人が食べやすい形状にしている。また栄養補助食を使い低栄養には気を付けている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	定期的にカロリー計算をしているが栄養士のケアやアドバイスは受けていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	塩素系漂白剤で毎日消毒を行っている。また手指消毒を行っている。新鮮な食材の購入に努めている。				

愛媛県グループホーム薬師谷マナー

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性を十分に理解し口腔ケア時の声かけや重度化された方への介助を行っている。				一部の利用者の口腔内の状況を把握できていないため、今後は全ての利用者の健康状況を把握し、口腔内の汚れや臭い等がない状況が継続できるよう清潔保持に努めることが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケアを介助している利用者さんは把握しているが自立されている方は分からない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	研修は受けたことはあるが歯科からの学びはない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日義歯の消毒を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用初産の状態に合わせ毎食後の口腔ケアに努めている。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	スタッフ間で話し合い看護師や家族さんに相談対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易に利用せず使用するときは利用者さんの心身に寄り添い使用させてもらっている。				トイレでの排泄を基本として支援しており、利用者一人ひとりの身体状況を把握し、排泄用品の必要性等について話し合い、その時の状態に合わせて対応している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	食事や運動の大切さを理解し便秘の原因や及ぼす影響を理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	把握し本人に合わせ声かけや支援を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	出来るだけトイレで用を足して頂くよう本人の状態似合わせ見直し対応している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	薬に頼ってしまっていることもあるがスタッフ間で話し合い検討しながら改善に取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりのパターンを把握し時間を決めトイレ誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人さんが理解出来るときは本人に相談するようにしている。また理解出来なくなってしまった利用者さんには家族さんと相談しながら支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	一人ひとりに合わせ日中や夜間など使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	薬に頼ってしまう部分はあるが消化の良い物や散歩や体操をしたりと取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	時間帯は職員の都合になっている。重度化された方はどうしても職員の判断で入浴しているが意思決定出来る方は三井日でも入浴出来るよう対応している。	◎		△	湯温や浸かる時間、シャンプーの使用等は利用者の要望に応じているが、入浴の時間帯は決まっているため、今後は時間帯等の要望にも応じる等、臨機応変な対応に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を入れたり脱衣所の温度を気をつけたり安心してくつろいだ気分に入浴出来るよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来ることはして頂き出来なくなってしまうところは羞恥心に配慮しながら介助、支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけの工夫をし時間や日をずらしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	スタッフ間での申し送りやバイタルの確認をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録の確認夜勤スタッフからの申し送りで確認している。				利用者の状況を記録で確認しながら、日中運動量を増やし活動的に過ごす等工夫しており、安易に薬剤に頼らないようにしている。不眠等が続きやむを得ない場合は、医師に相談し薬を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	温かい飲み物をなんでもたたりミーティングで話し合っているが全て取り組んでいるわけではない。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	記録の確認を行い適度な運動やマッサージなど行っているが医師と相談しながら薬を使用することもある。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	1時間以内の昼寝やその人その人に合わせた支援を行っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	望まれる方には家族の理解を得られればいつでも対応はしているが重度化が進んでいるためあまり出来ていないのが現実である。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	声かけで促すが手紙を書ける方は少なくなっている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	何時でも電話が出来るよう配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	部屋に飾るようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族さんに理解、協力して頂けるようお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持をすることで安心感があることを理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的ではないが外出支援時はお金を持っている方は自分でお支払いをしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物をするお店は何軒か決まっているが理解や協力は得られていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族さんと相談したり本人の力に合わせスタッフ間で話し合い所持して頂いている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月預かり金や出納帳の確認をし家族さんに送っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	通院や個別の買い物など出来る限り対応している。	◎		○	買い物や墓参り、急な受診等、利用者や家族の要望にも柔軟に対応している。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門は日中いつも開放している。ベンチをおいたりいつでも入りやすい雰囲気にはしている。	◎	◎	◎	玄関周りにベンチを置いたり、季節の花を植えたりするほか、行事ごとにウエルカムボードを設置する等、気軽に入れる雰囲気づくりに取り組んでいる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	◎	季節に応じた飾り付けや行事の写真を飾っている。また家庭的な雰囲気になるようソファなどおいたりしている。	◎	○	○	広い玄関ホールやリビングは整理整頓され、加湿器を置いて乾燥防止にも努めている。雑誌ラックが取りやすい位置にあり、テーブルにはみかんカゴを置き家庭的な雰囲気がある。毎日掃除が行き届き、清潔感のある空間になっている。壁にはクリスマス等季節ごとに飾りつけをしている。窓からは近くの山々が見え、自然を肌で感じることができる落ち着いた空間になっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝掃除を行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を生けたり飾ったり季節感を感じられる飾り付けをしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングにはソファや和室があり思い思いに過ごせる場所がある。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	リビングからは見えづらい位置にある。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた物を持ってきて頂いたり必要な物は相談し買いに行ったりしている。	◎		○	整理棚や時計、テレビ等使い慣れたものを持ち込み、居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりの設置や居室、トイレの表示など安全に生活が送れるよう配慮している。			○	トイレへの動線に手すりを設置しており、居室やトイレも分かりやすいように大きな文字で表示する等、安全に安心して自立した生活が送れるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	持ち物には名前の記入をしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	新聞や雑誌はいつでも手に取れる場所においてある。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	△	理解はしているが夜間や場所、スタッフの人数によって施錠しているところもある。	◎	◎	○	職員は勉強会等を通して鍵をかけないケアの重要性を理解しており、玄関等出入口は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠していない時間帯は家族さんに話し理解を得ている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関にチャイムを設置し外出の察知が出来るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	病歴は家族さん聞ける範囲で把握している。現病は常に把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝のバイタルチェックを行い変化は必ず記録に残すようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師やかかりつけ医に相談している。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人、家族の希望に添えるよう支援している。	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望は大切に本人、家族と都度相談している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度報告し家族さんの合意を得るようにしている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供は必ず行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	情報交換、相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医と相談連携を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師が出勤しているときに相談している。変化がある場合はかかりつけ医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医にいつでも相談出来る体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	体調の変化に応じ急を要する場合は協力医療機関に連絡している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	目的は分かっているが全てを理解出来ているわけではない。分からなければかかりつけ医に聞いている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	職員同士で確認し誤飲を防ぐようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の様子を把握し変化は報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化があるときは報告している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化終末期のあり方については家族さんに意向を聞いている。事業所で出来ること出来ないことの把握して頂き話し合っている。				医療が必要な場合は訪問看護が提供されるなど医療連携が取れている。看取りについては指針を定め、入居時にも「終末期における延命治療事前同意書」で確認している。随時重度化や終末期のあり方について、家族や主治医、職員等関係者を交え話し合い方針について共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	他職種と連携スタッフ間で話し合い共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員のスキルを把握し、職員と話し合い職員の思いを組み込み支援の方法を決めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来ること、出来ないことをしっかり伝え理解を得て頂くよう努力している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者さんの思いを一番に考え他職種連携に努め支援準備を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	自分の家族だったら・・・という気持ちで家族さんに寄り添い支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	研修に参加し学んではいるが定期的ではない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	日頃からの訓練は出来ていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	FAXやメール、インターネットで情報を得ている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	FAXやメール、インターネットで情報を得ている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	手洗いは出来ているがうがいは出来ていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族さんの気持ちを聞きし思いを理解し一緒に過ごしていけるよう声をかけている。				夏祭りやお茶会等、行事の際には家族に案内状を送り参加を得ている。毎月担当職員が利用者の写真を添付し手紙を添えて送付し、健康状態等利用者の様子を報告している。事業所の事柄や職員の異動等については、運営推進会議で報告し理解を得ている。家族の面会時には、必ず声をかけて話しやすいように配慮する等、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ゆっくり団らん出来るよう居室へ案内したり帰られる際は玄関までお見送りしいつでもきて頂けるよう対応を行っている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	外出や行事に参加して頂けるよう声をかけている。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月お便りを送り日常の様子をお伝えしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	面会時やお便りで報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会時にご本人さんの状況をお伝えし良い関係を築いていけるよう支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	2ヶ月に1回の運営会議の議事録をお便りと一緒に送っている。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事等で交流を図って頂かない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	リスクについて説明し抑圧感の暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には普段の様子を報告し家族さんの要望も聞くようにしている。毎月のお便りで観光状態もお伝えしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に説明を行い理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明し出来るだけ対応し支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に説明同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	定期的な行事等で行っている。		◎		自治会に入会しており、事業所の事柄は回覧板を回し、PRに協力してもらう等、地域との連携が図れているほか、お茶会等事業所の行事にも地域から多くの参加があり、利用者が地域住民との交流を深めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	日常的なあいさつや行事やお茶会運営会議に参加して頂き関係を深めている。また地域行事にも参加している。		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	行事以外ではあまり立ち寄りて頂けない。増えたとは思えない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	時々野菜を持ってきて頂いたりする。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶は必ずしているが日常的なおつきあいはあまりしていない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	お茶会や行事の参加は声かけをしている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の消防団と連携した避難訓練や地区のお祭りへの参加などを支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	立地のお店は少ないが近く美容室には協力をして頂いてる。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者さんは参加出来ないが家族や地域の方々は参加がある。	○		△	運営推進会議には家族や地域からの参加を得ているが、利用者の参加がないのが現状である。今後は利用者が参加しやすい工夫した取組みを期待したい。会議では事業所の取組み状況等について報告している。会議で出された意見は検討してサービス向上に活かしており、その結果についても報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	資料を作り報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	議事録に残し問題解決に努め報告しサービスの向上を図っている。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	メンバーは同じ方が来られ行政の関係で平日の昼間にしか日程や時間帯は出来ない。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	毎回講評している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	MTのや職員の会の際復唱し実践に繋がるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	分かりやすい言葉で理念を作っている。見えるところに掲示している。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人内の研修や外部への研修を積極的に受けさせてもらっている。				平成30年10月に代表者が変わり、新しい職員評価基準を設定しながら職員の働きやすい環境づくりに努めている。代表者は今年度から年2回自己成長シートをもとに職員面談を行うほか、ミーティング等にも参加し職員と共に新体制の構築を行い、勤務体制の見直しを行う等、ストレス軽減にも取り組み、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	月に1度勉強会をしたり業務を通してアドバイスをするようにしている。年に2回は自己成長シートを配布し面接を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に2回職員一人ひとりと面接を行い向上心が持てるようにしている。また処遇改善手当や給与のアップをして頂いている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着型サービス協会へ加入させて頂き委員として活動している。また研修への参加は積極的にさせて頂いている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	誰でも相談しやすい職場の雰囲気を作ってもらっている。また年に何回かは職員ミーティングにも参加している。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修やホーム内の研修で理解している。特にスピーチロックがないよう心掛けている。				身体拘束委員会を設置し、虐待防止に取り組んでおり、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順等について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングや虐待防止委員会で話し合い機会の場を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会や研修で全員が理解出来るように努めている。日々注意は払っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	休日はしっかり取れるようシフトを作り、また休憩もしっかりとりリフレッシュに努めている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会や虐待防止委員会を行い正しく理解出来るよう努めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会や虐待防止委員会を行い話し合う機会を作っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族さんに理解してもらえるよう説明し話し合いながら理解を図っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修への参加や個人的に学習し理解している職員もいるが職員によってばらつきがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	情報提供をしたり相談等の支援は行っているが実際はあまり相談等はない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	利用している利用者はいないが利用が必要な場合は行政との連携はとれるようにしている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作成してある。勉強会等でスタッフ全員が周知出来るようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	2年に1度救命救急講座を受講し実践力を身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは必ず関わったスタッフが上げるようにしている。またミーティング時にスタッフ間で話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	ミーティング時に一人ひとりのリスクについて話し合い事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情の対応は管理職しか理解していない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば管理者に報告し速やかに対応出来る部分はしている。また必要であれば行政にも報告してる。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば回答出来る限りの対応は行っている。また苦情を言って頂ける関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別に聞く機会を作ったり介護相談員さんの受け入れで苦情を伝えられるような場を作っている。			○	利用者には日常生活の中で意見や要望等を聞いている。家族には面会時や運営推進会議で意見や要望等を聞く機会を設けている。管理者は職員と日頃から何でも言い合える関係が築けており、職員の意見を把握し利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	個別に機会を作ったり運営推進会議への参加出来会を作っているがとくに遠方に住んでいる家族さんが多いため家族会等の場はない。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	窓口はある。適宜苦情を相談出来るような関係性を築いている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に足を運んでもらったり話を聞いてもらい要望や意見、提案を受け入れてくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりの声に耳を傾けるようにし、利用者本位の支援をしていくため職員の意見は検討している。			○	

愛媛県グループホーム薬師谷マナー

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービスの向上を目指し自己評価に取り組んでいる。				評価結果は運営推進会議で報告し、家族等参加者には理解を得ている。不参加の家族にも評価結果を郵送し報告しており、事業所の取組みについての理解を得ている。家族等には事業所の取組みについてモニターをしてもらっており、具体的に運営に活かせる助言等をしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	ミーティング時に報告し目標を立て日々取り組んでいる。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	定期的に勉強会を開き取り組んでいるが職員全員が周知しているかは分からない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営会議時に報告したり家族さんにはお便りで報告させてもらうようにする。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ミーティング時や運営会議で確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	対応マニュアルを作成し掲示している。				年3回火災や地震、津波等様々な想定で避難訓練を行っているが、地域住民等参加の合同での訓練の実施には至っていない。事業所のある地域は、土砂災害危険区域であることに鑑み、早急に地域との連携強化に取り組む等、緊急災害時の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に3回は計画を立てさまざまな時間帯を想定して行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	各フロア主任が定期的に点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署や消防団との訓練は行っている。地域の方には声はかけているが訓練の参加はない。法人内で連携はとっている。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	研修に参加するぐらいである。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	特に地域に向けての発信は行っていない。				地域の相談支援は不十分なため、今後は事業所を積極的にPRする等、地域の相談ニーズの充足に取り組んで欲しい。地域の行事には積極的に参加し、子どもを事業所の夏祭りに招待する等、地域との交流は深まっているが、関係機関と協働での地域活動の実施には至っていないため、今後は地域関係機関と協働でのイベントに取り組む等、ケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営会議等で話すくらいで相談支援とまでは行かない。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	2ヶ月に1度のお茶会を開いたり行事を開き事業所を開放し活用している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行われていないが今後法人が良ければ取り組んでいきたい。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	他事業所の運動会に参加させて頂いたりイベントを開き学童へ挨拶へ行かせてもらったりと事業所から地域発信出来るよう活動を行っている。今後もっと広げていきたい。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年12月12日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890300191
事業所名	グループホーム薬師谷マナー
(ユニット名)	雪輪
記入者(管理者)	
氏 名	中村 沙知
自己評価作成日	令和1 年 11 月 11 日

【事業所理念】 その人らしさと笑顔あふれる家業 師谷マナー	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・目標 虐待防止（拘束）について全員が理でき高齢者の尊厳を守り支援出来る。→職員で虐待拘束委員会を設置しメンバーに新人職員を含んだ。委員会で話し合ったことは回覧している。職員の利用者さんに対する言葉遣いが少し変わった。 ・プランに沿った実践ができて、記録（気づき）が書けるようになる。→勉強会でプランの大切さや意味を理解してもらい実践するよう取り組んでいる。また記録の勉強会も開いたり記録を管理職がチェックし個人的にアドバイスしている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は法人が変わり2年目を迎えており、利用者がより安心して暮らせるようにするため、新管理者のもと、職員が一丸となり利用者本位の支援に努めている。定期的な茶会等を通じて、利用者が地域と交流する機会が多く、地域と関わりながらの生活を継続している。開設後15年経過の事業所は地域に浸透し根づいている利点を活かし、関係機関と連携し地域活動を行う等、ケア拠点としての取組みを期待したい。
-------------------------------------	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人の希望をコミュニケーションを取りながら聞き出しプランをあげ希望の添えるよう努めている。	○		○	職員は、日頃のコミュニケーションを大切にしながら利用者の思いや希望等を把握するよう努めており、介護計画ではそれを反映させた上で支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者の立場になり表情や動作等で観察しながらミーティング等で話し合い検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	プラン作成時や入所時のアセスメント、面会時にお聞きしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の思いや行動を毎日記録し共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いに耳は傾け決めつけのないようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）から聞いている。	○	契約時や家族面会時、本人に聞きスタッフ間で共有している。			○	入居時に利用者や家族から生活歴や性格、こだわり等を聞き情報シートにまとめている。入居後に収集した情報も追加記録し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力（わかること・できること・できそうなこと等）等の現状の把握に努めている。	○	職員間で話し合ったり日々の生活や関わりの中で把握したりセンター方式のD-1、2を使い明確にしたりしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	記録やスタッフ間の話し合いで把握し出来るだけあんしんした生活が送れるよう支援している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。（身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等）	○	BPSDの出現まで持ち込まないよう速やかに対応している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	記録に残しスタッフ間で共有している。				
3	チームで行うアセスメント（※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む）	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	センター方式のc-1-2を使い把握した情報を元に本人の視点で検討している。			○	毎月のミーティングやユニット会議で利用者の意向を確認し、利用者に必要な支援について話し合っている。利用者のできることに視点を置き、介護計画に反映させながら取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティング時にスタッフ同士で話し合い、その人に今必要な支援を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ミーティングを行い個々の課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ミーティングで話し合い本人の思が反映されるような個別化された介護計画書に心掛けている。				釣りやゴルフ等利用者のしたいことなどを、本人や家族に確認し、職員等関係者を交えて話し合い、それぞれの意見やアイデア等を反映して介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人の意思を尊重し、家族さんの意見を聞きそれぞれの意見やアイデアを反映し作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	出来る限りその人らしさあるような介護計画書を作成するよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族や本人にお聞きしているが全てを把握はできていない。地域の人との協力はあまり得られていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	スタッフ間で観覧し確認するようにしている。また日々の記録の用紙にもプランが書いてあり常に目にはいるところにある。			○	ミーティング時に利用者一人ひとりの介護計画を確認し、職員間で共有している。介護計画に沿ったケアが実践できているかは、職員間で話し合うようにしているが、時にはできていないこともあるため、今後は職員全員で徹底し取り組んで欲しい。利用者の言葉や表情等を記録しているが、利用者によっては詳細に記録されていないため、今後は全ての利用者の様子を分かりやすく記録して欲しい。また、利用者一人ひとりに対する職員の気づきや工夫も記録しているが、情報量が少ないため、今後は記録の充実に努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	計画に沿って実践をしモニタリングをミーティング時に行い課題を明確にし日々の支援に繋げている。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	一人一人個別に記録を細かく記録するようにしている。			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	アイデアや工夫の記録をできるだけするようにしている。			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	月に1度のミーティング時に行っている。			○	介護計画は6か月ごとに見直ししている。毎月ミーティングやユニット会議でモニタリングを行い、現状確認をしている。利用者の状態に変化が生じた場合には、随時家族と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一回は必ずミーティングを行い現状の確認に努めている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	本人の思いを聞いたり家族さんと連絡をとっているがほとんどが本人の状態に合わせた計画書になっている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的に行っている。緊急時は都度話し合い対応している。			○	毎月ユニット会議で利用者一人ひとりの状態等について話し合い、課題の解決に取り組んでいる。緊急案件がある場合は、その都度当日の勤務者で話し合っている。参加できない職員には、議事録を回覧・確認し、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	一人一人が発言出来る雰囲気や場作りをし活発な意見交換が出来ている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	開催日や日時、場所は工夫しているがその日出動しているスタッフのみになってしまっている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成し全員の共有に努めている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを記入し共有している。			○	朝礼や申し送りノートを活用し、確認後に押印する仕組みになっており、職員間で共有している。押印はフロアリーダーが確認し、できていない職員には口頭で再確認を促して、職員全員が確実に共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝礼を行ったり申し送りノートの確認口頭でしている。時々申し送りノートに目を通してない職員もいるのが課題である。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	したいことは把握しできるだけ叶えられるよう努めている。				職員は日々の生活の中で利用者が自分で決められるよう選択できる機会を提供しており、利用者は時代劇を観たり、家族に手紙を書いたり自由に過ごしている。職員は利用者の性格や生活歴などこれまでの情報を活かした会話を心がけ、活き活きとした言動や表情を引き出せるよう声かけや雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時には衣服を選んだり、おやつを選んだり買い物に行ったりと自己決定出来る場面を多く作る努力はしている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人に合わせ分かりやすい言葉や選びやすい状況を作り納得てもらえるよう支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	その人のペースで生活してもらうようにしているが入浴はほとんどがスタッフの都合になっている。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	その人の好みに合わせ支援し言葉かけや雰囲気は大切にしている。まいやる気が出るような声かけをしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	顔の表情や反応をよく観察し意向に沿った支援に心掛けている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	プライドを傷つけないような言葉かけを心掛けている。	◎	○	○	職員は研修で学ぶ機会を作っており、利用者に対しては、人生の先輩であることを念頭に置き支援に取り組むよう意識している。利用者の居室に入る際のノックと声かけを必ず行い、入浴や排泄時等には羞恥心に十分配慮して対応している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	周りにいる利用者さんに指摘される前にさりげない声かけを行っている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	プライバシーに配慮し入浴時にはタオルで隠したりと羞恥心を守りながら介助を行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には必ずノックを十分に配慮はしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し厳守し施設外では利用者さんの状態は話さないようにしている。また入社時に契約書を交わすようにしている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	生活の中のさまざまな場面でその人の残存機能を生かし、いつも利用者さんは人生経験豊富な先輩としてお互い助け合っているという関係性を大切にしている。また感謝の気持ちは忘れずにねぎらいの言葉は必ずかける。				利用者同士、車いすを押したり、みかんの皮をむいて渡したりと思いやりの心を持って助け合っている。必要な時には職員が自然な形で間に入り仲をとり持っている。現在はトラブルになることもなく平穏な状況である。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	それぞれが役割を持ち発揮出来る場面を多く作るようにしている。また利用者さん同士の助け合いの場は見守るようにしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	スタッフが間に入り会話を機会を作ったり世話役の利用者さんが力を発揮出来るような場面を作ったりと支え合得るような支援に努めている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きそうなきや起きたときはスタッフが間に入り対応している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時や普段の会話の中で把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	把握出来ていないところもある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	来てくれる方はいるが会いに行くことはあまりない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時にはお茶を出しリビングや居室でゆっくり過ごして頂けるように対応している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出支援は心掛けているがどうしても歩ける方が中心になってしまっている。またスタッフの人数の都合で出来ない日もある。	○	○	△	毎月ドライブや買い物等、利用者の要望に応じて対応しているが、外出の機会が少ないため、重度の利用者を含め、散歩等外出する機会が増える取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力を得られていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	本人の恐怖感が強く出来ていない。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望ではないが行く場所はその都度変えて季節を楽しめる場所など工夫している。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	勉強会を行い認知症に関する取り組みは行っている。				アセスメントで利用者のできることを把握し、寄り添い見守りながら支援しており、包丁で野菜を切る等自分でできることをしてもらい、利用者一人ひとりの心身機能の向上につながるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者一人一人に合わせ残存機能を生かし今の状態が低下しないよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人のペースでして頂き間違ったところはプライドを傷つけないよう後で直すようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントを行いそれぞれ得意分野を生かし役割を持って生活されている。				利用者は、毎日掃除機やモップをかけたり、ゴミ収集や食器拭きを手伝ったりと一人ひとり役割や出番があり、職員は感謝の言葉を伝えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	レベルが進んでも一人ひとりに役割や得意分野を生かせるような場面作りをしている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	行事ごとには地域の方々に参加して頂き出来る限り出番や張り合いが持てるよう支援している。 地域へ出向くきっかけはあまりない。				

愛媛県グループホーム薬師谷マナー

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	出来るだけ選んでもらうようにしている。またレベルが進んだ方には2択にするなどしておしやれを楽しんで頂いている。				自分で身だしなみを整えられる利用者は起床後、鏡を見て髪を整えたり、男性利用者は髭を剃ったりしている。職員は剃り残しなどをさり気なく観察しながら一人ひとりの身だしなみに配慮している。重度の利用者を含め、家族の協力のもと、訪問美容を利用してお気に入りの髪型に整える等、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	一人ひとり個々に好きな物を入所時に持ってきて頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の好みを理解し2択にしたり本人と一緒に選んだりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に合わせたおしやれを本人の好みに合わせ楽しんで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	周囲に気づかれないようにそっとさりげなくカバーするようにしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族さんの協力のある方は馴染みの理髪店へ行って頂いているが、そのほかの方は近隣の利用者さんのことをよく分かっている美容室へ行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	近隣の美容師さんにホームへきて頂きカットなど行っている。			○	
17	食事を楽しむこと のできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の楽しみを持ち安全に嚥下出来るよう姿勢に気を付けている。				献立は法人の調理員が作成し、それを職員がアレンジしている。配達以外の不足品を利用者と一緒に買い出しすることがある。料理から片付けまで手伝う利用者もいる。利用者自身が白菜の漬物を作る等、季節の野菜を使ったメニューも提供している。茶碗や湯呑み等、自分専用のものを使用している。職員も同じ食卓を囲み、会話やサポートしながら一緒に同じものを食べている。重度の利用者を含め、調理の音や匂い等の雰囲気を楽しむながら、食事ができるのを待っている。2か月ごとに栄養価計算を行いグラフにして、栄養に偏りが無いよう話し合い、利用者がバランス良く栄養が摂れるように努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	その人の出来ることを把握し下ごしらえや後片づけ等と一緒にやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	調理や後片づけ等を行いねぎらいの言葉をかけることで利用者の自信や達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	一人ひとりの好きな物は把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味などを取り入れている。	○	献立は決まっているができるだけ季節の物を取り入れたりしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりと器の工夫等)	△	ワンプレートに盛りつけることが多いが出来るだけ彩りよく盛り付けが出来るよう工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	慣れた物を使って頂いている。また状態に合わせ使いやすい食器を用意している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べるのは昼食だけが朝、夕は一緒に座ったり利用者の様子を見たり介助をしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	目の不自由な方には声かけを行っている。また食材などを伝えるようにしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	病気に応じて食事量や内容水分量を把握し提供している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分量の少ない方には時間をかけゆっくり飲んでもらったり好きな飲み物を飲んでもらったりしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りが無いように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	定期的にカロリー計算をしているが栄養士のケアやアドバイスは受けていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	塩素系漂白剤で毎日消毒を行っている。また手指消毒を行っている。ペーパータオルを使用し共同タオルは使用していない。				

愛媛県グループホーム薬師谷マナー

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後の歯磨きは徹底し研修などで理解している。				一部の利用者の口腔内の状況を把握できていないため、今後は全ての利用者の健康状況を把握し、口腔内の汚れや臭い等がない状況が継続できるよう清潔保持に努めることが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアを介助している利用者さんは把握しているが自立されている方は分からない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	研修は受けているが日常的には実地されていない。また歯科からの学びはない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日義歯の消毒を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後の歯磨きは徹底している。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	重度の利用者さんはボリグリップで対応しているが歯科受診出来る方は定期的に受診している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	利用者さんそれぞれの機能を観察しその人にあった物で対応している。				トイレでの排泄を基本として支援しており、利用者一人ひとりの身体状況を把握し、排泄用品の必要性等について話し合い、その時の状態に合わせて対応している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分補給や野菜を多く摂取出来るよう取り組んでいる。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	自立されて入る方の排泄パターンは全部はチェックできていないが大体のパターンは記録に残し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ミーティングや職員間で話し合いや記録を見てパターンを理解し見直し、検討を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	記録を見たりスタッフ間で話し合い検討しながら改善に取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者さんをよく観察し訴えない方には早めの声かけを努めている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の同意や家族との話し合いは出来ていないが利用者の状態を見てその人にあった物を検討している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	自立した排泄が出来るようむやみにオムツ等を使用しないようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	薬に頼ってしまう部分はあるが消化の良い物や散歩や体操をしたりと取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	時間帯は職員の都合になっている。重度化された方はどうしても職員の判断で入浴しているが意思決定出来る方は毎日でも入浴出来るよう対応している。	◎		△	湯温や浸かる時間、シャンプーの使用等は利用者の要望に応じているが、入浴の時間帯は決まっているため、今後は時間帯等の要望にも応じる等、臨機応変な対応に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を入れたり脱衣所の温度を気をつけたり安心してくつろいだ気分に入浴出来るよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人が出来ることはして頂き出来なくなってしまうところは羞恥心に配慮しながら介助、支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒むかやは声かけの工夫をし時間や日をずらしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	スタッフ間での申し送りやバイタルの確認をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録の確認夜勤スタッフからの申し送りで確認している。大体把握している。				利用者の状況を記録で確認しながら、日中運動量を増やし活動的に過ごす等工夫しており、安易に薬剤に頼らないようにしている。不眠等が続きやむを得ない場合は、医師に相談し薬を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の活動を増やす努力をしているが昼夜逆転してしまっている方もいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	それぞれの状態を観察確認しなるべく使用しないように努めている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの状態に合わせ個室等休みたいときはゆっくり休める場所がある。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話はかかってくれば対応は出来ている。要望があれば書けることも出来る。字を書ける方は家族さんと手紙のやりとりをしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話をかけられない方はスタッフがかけたり手助けしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	何時でも電話が出来るよう配慮しているが電話をかけたいという意志は引き出せていない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡したり読めない方には読んで聞いてもらっている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	プランに入れ電話や手紙のやりとりをしているが全員ではない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持をすることで安心感があることを理解している。所持をしている方が少ないのが現状である。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	ほとんど行っていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物をするお店は何軒か決まっているが理解や協力は得られていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	手元にお金がないと不安な方には家族の理解を得て叙事してもらっている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合っている理解してもらっている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月預かり金や出納帳の確認をし家族さんに送っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	通院や個別の買い物など出来る限り対応している。	◎		○	買い物や墓参り、急な受診等、利用者や家族の要望にも柔軟に対応している。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門は日中いつも開放している。ベンチをおいたりいつでも入りやすい雰囲気にはしている。夜間以外は誰でも出入り出来る。	◎	◎	◎	玄関周りにベンチを置いたり、季節の花を植えたりするほか、行事ごとにウエルカムボードを設置する等、気軽に入れる雰囲気づくりに取り組んでいる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	◎	共有空間には季節に応じた飾り付けや行事の写真を飾っている。	◎	○	○	広い玄関ホールやリビングは整理整頓され、加湿器を置いて乾燥防止にも努めている。雑誌ラックが取りやすい位置にあり、テーブルにはみかんカゴを置き家庭的な雰囲気がある。毎日掃除が行き届き、清潔感のある空間になっている。壁にはクリスマス等季節ごとに飾りつけをしている。窓からは近くの山々が見え、自然を肌で感じることができる落ち着いた空間になっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝掃除を行っている。汚物も臭いは漏れないようにしている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の飾り付けを共有空間にはして季節感を感じられる飾り付けをしている。また散歩中に花を摘み飾ったりしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングにはソファや和室があり思い思いに過ごせる場所がある。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	戸を閉め他者からは見えないよう配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので生活して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	△	使い慣れた物持ってきて頂くよう入所時には説明しているが使い慣れていた物かどうかはわからない。	◎		○	整理棚や時計、テレビ等使い慣れたものを持ち込み、居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりの設置や居室、トイレの表示など安全に生活が送れるよう配慮している。			○	トイレへの動線に手すりを設置しており、居室やトイレも分かりやすいように大きな文字で表示する等、安全に安心して自立した生活が送れるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	張り紙を貼ったり不安や混乱を招くような物品や言葉掛けは除くよう努力している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	新聞や雑誌はいつでも手に取れる場所においてある。また裁縫道具等はこちらで管理しているのでこちらから提案し提供することが多い。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	理解はしている。日中は鍵をかけずに開放している。	◎	◎	○	職員は勉強会等を通して鍵をかけないケアの重要性を理解しており、玄関等出入口は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠していない時間帯は家族さんに話し理解を得ている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	フロアにはスタッフが必ず居るようにしている。また外へ出ようとしている利用者さんには必ず声をかけるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	本人や家族からのアセスメントにより既往歴や現病を出来る限り把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝のバイタルチェックを行い表情や行動を観察し早期発見につなげている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師やかかりつけ医に相談している。また週に1度の往診時に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医で対応出来ない場合は家族、本人の希望に沿いスタッフ間で話し合い他医療機関を受診する。	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	それぞれの医療機関に情報提供させて頂いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果は必ず家族に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	医療情報ファイルを病院に提示したり口頭で伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時は面会に行き病院関係者に常置医を聞いている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医と相談連携を行っているまた退院後退院後の介護計画書の要望があれば送っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	常駐の看護師や法人内の訪問看護師と連絡を取ったりかかりつけ医の協力を得て相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医にいつでも相談出来る体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックをし変化等があれば報告早期発見や治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬の効能、副作用をファイルにつづり誰でも見れるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	看護師が薬の管理をしている。職員同士で確認し誤飲を防ぐようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	記録や申し送りにて確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	記録し状態が変われば報告し指示をいただいている。				

愛媛県グループホーム薬師谷マナー

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化に合わせ話し合っているが入所時にはそこまで行っていない。				医療が必要な場合は訪問看護が提供されるなど医療連携が取れている。看取りについては指針を定め、入居時にも「終末期における延命治療事前同意書」で確認している。随時重度化や終末期のあり方について、家族や主治医、職員等関係者を交え話し合い方針について共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	他職種と連携スタッフ間で話し合い共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員のスキルを把握し、職員と話し合い職員の思いを組み込み支援の方法を決めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に看取りの指針を示し説明を行い理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	出来る限り本人の意思を尊重し家族、他職種と連携を図るよう努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	状態の変化時は家族とまめに連絡を取り家族の思いを聞きながら心理的支援に努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修や勉強会では学んでいるが定期的には学べていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	マニュアルはあるが日頃からの訓練は出来ていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	行政からのメールやFAXで情報を得ている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	FAXやメール、インターネットで情報を得ている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがいの徹底をしているがうがいは出来ていない。また面会者には入り口に手指消毒が出来るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	手紙や電話、面会時などの家族コミュニケーションを取りながら共に支え合っている関係性作りに努めている。				夏祭りやお茶会等、行事の際には家族に案内状を送り参加を得ている。毎月担当職員が利用者の写真を添付し手紙を添えて送付し、健康状態等利用者の様子を報告している。事業所の事柄や職員の異動等については、運営推進会議で報告し理解を得ている。家族の面会時には、必ず声をかけて話しやすいように配慮する等、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気持ちの良いあいさつと笑顔を心掛けている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事には参加して頂けるよう手紙や電話でお誘いしている。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月本人お写真付きののの便りに本人の様子を記入したりホーム新聞を送付している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時来られたとき話を聞いている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時一緒に過ごして頂く時間を作り今の本人の状態を理解して頂いている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	2ヶ月に1回の運営会議の議事録をお便りと一緒に送っている。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事等で交流を図って頂いている。家族会等は特に行っていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒リスクの高い方はセンサーマットを使用しているが家族に同意をいただいている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には普段の様子を報告し家族さんの要望も聞くようにしている。毎月のお便りで観光状態もお伝えしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に説明を行い理解、同意書をいただいている。また変更があれば都度同意書にサイン頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明し出来るだけ対応支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に説明し文書で示し同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	定期的な行事等で行っている。		◎		自治会に入会しており、事業所の事柄は回覧板を回し、PRに協力してもらう等、地域との連携が図れているほか、お茶会等事業所の行事にも地域から多くの参加があり、利用者が地域住民との交流を深めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	日常的なあいさつや行事やお茶会運営会議に参加して頂き関係を深めている。また地域行事にも参加している。		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	お茶会や行事等をしていく中で関係作りは出来てきたと思う。				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	行事の時は立ち寄って頂けるが日常的にはあまりない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	時々野菜を持ってきて頂いたりする。気軽に声をかけて下さっている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	できていないが声をかければ参加してもらえるかも・・・				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	施設の周辺にはお店はないが美容室や夏には地元のそうめん流しに行っている。また本人の馴染みの場所への支援を行っている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	立地上お店はほとんどないが消防団には協力してもらっている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者さんは参加出来ないが家族や地域の方々は参加がある。	○		△	運営推進会議には家族や地域からの参加を得ているが、利用者の参加がないのが現状である。今後は利用者が参加しやすいよう工夫した取組みを期待したい。会議では事業所の取組み状況等について報告している。会議で出された意見は検討してサービス向上に活かしており、その結果についても報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	書面を作り報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	提案があれば受け入れスタッフ間で共有している。また議事録に残し報告を行いサービスの向上を図っている。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	メンバーは同じ方が来られ行政の関係で平日の昼間にしか日程や時間帯は出来ないが次回の開催日は必ずお伝えしている。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	運営会議のメンバー家族に送っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	MTのや職員の会の際復唱し実践に繋がるようにしているスタッフ全員で考えた理念にしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	分かりやすい言葉で理念を作っている。見えるところに掲示している。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内の研修や外部への研修を積極的に受けさせてもらっている。また職員の力量に応じた研修を促してもらっている。				平成30年10月に代表者が変わり、新しい職員評価基準を設定しながら職員の働きやすい環境づくりに努めている。代表者は今年度から年2回自己成長シートをもとに職員面談を行うほか、ミーティング等にも参加し職員と共に新体制の構築を行い、勤務体制の見直しを行う等、ストレス軽減にも取り組み、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	月に1度勉強会をしたり業務を通してアドバイスをするようにしている。年に2回は自己成長シートを配布し面接を行っている。スキルアップにつながっている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	年に2回職員一人ひとりと面接を行い向上心が持てるようにしている。また処遇改善手当や給与のアップをして頂いている。職員によってはあまり代表と関わりがとれない。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着型サービス協会へ加入させて頂き委員として活動している。また研修への参加は積極的にさせて頂いている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	誰でも相談しやすい職場の雰囲気を作ってもらっている。また年に何回かは職員ミーティングにも参加しているが相談しづらい職員もいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修やホーム内の研修で理解している。特にスピーチロックがないよう心掛けている。				身体拘束委員会を設置し、虐待防止に取り組んでおり、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順等について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングや虐待防止委員会で話し合い機会の場を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会や研修で全員が理解出来るように努めている。日々不適切なケアや虐待には注意は払っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	休日はしっかり取れるようシフトを作り、また休憩もしっかりとりリフレッシュに努めている。またストレスが溜まらないよう相談に乗ってくれている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会や虐待防止委員会を行い正しく理解出来るよう努めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会や虐待防止委員会月に1度のミーティングを行い話し合う機会を作っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族さんに理解してもらえるよう説明し話し合いながら理解を図っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修への参加や個人的に学習し理解している職員もいるが職員によってばらつきがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	情報提供をしたり相談等の支援は行っているが実際はあまり相談等はない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	利用している利用者はいないが利用が必要な場合は行政との連携はとれるようにしている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作成してある。勉強会等でスタッフ全員が周知出来るようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	2年に1度救命救急講座を受講し実践力を身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは必ず関わったスタッフが上げるようにしている。またミーティング時にスタッフ間で話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	ミーティング時に一人ひとりのリスクについて話し合い事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情の対応は管理職しか理解していない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば管理者に報告し速やかに対応出来る部分はしている。また必要であれば行政にも報告してる。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば回答出来る限りの対応は行っている。また苦情を言って頂ける関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別に聞く機会を作ったり介護相談員さんの受け入れで苦情を伝えられるような場を作っている。			○	利用者には日常生活の中で意見や要望等を聞いている。家族には面会時や運営推進会議で意見や要望等を聞く機会を設けている。管理者は職員と日頃から何でも言い合える関係が築けており、職員の意見を把握し利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	個別に機会を作ったり運営推進会議への参加出来会を作っているがとくに遠方に住んでいる家族さんが多いため家族会等の場はない。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	窓口はある。適宜苦情を相談出来るような関係性を築いている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に足を運んでもらったり話を聞いてもらい要望や意見、提案を受け入れてくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりの声に耳を傾けるようにし、利用者本位の支援をしていくため職員の意見は検討している。相談をすれば応じてくれている。			○	

愛媛県グループホーム薬師谷マナー

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価をし振り返りができサービスの向上に取り組んでいる。				評価結果は運営推進会議で報告し、家族等参加者には理解を得ている。不参加の家族にも評価結果を郵送し報告しており、事業所の取組みについての理解を得ている。家族等には事業所の取組みについてモニターをしてもらっており、具体的に運営に活かせる助言等をしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	ミーティング時に報告し目標を立て日々取り組んでいる。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	定期的に勉強会を開き取り組んでいるが職員全員が周知しているかは分らない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営会議時に報告したり家族さんにはお便りで報告させてもらうようにする。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ミーティング時や運営会議で確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	対応マニュアルを作成し掲示している。				年3回火災や地震、津波等様々な想定で避難訓練を行っているが、地域住民等参加の合同での訓練の実施には至っていない。事業所のある地域は、土砂災害危険区域であることに鑑み、早急に地域との連携強化に取り組む等、緊急災害時の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に3回は計画を立てさまざまな時間帯を想定して行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	各フロア主任が定期的に点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署や消防団との訓練は行っている。地域の方には声はかけているが訓練の参加はない。法人内で連携はとっている。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	研修に参加するぐらいである。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	特に地域に向けての発信は行っていない。				地域の相談支援は不十分なため、今後は事業所を積極的にPRする等、地域の相談ニーズの充足に取り組んで欲しい。地域の行事には積極的に参加し、子どもを事業所の夏祭りに招待する等、地域との交流は深まっているが、関係機関と協働での地域活動の実施には至っていないため、今後は地域関係機関と協働でのイベントに取り組む等、ケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営会議等で話すくらいで相談支援とまでは行かない。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	2ヶ月に1度のお茶会を開いたり行事を開き事業所を開放し活用している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行われていないが今後法人が良ければ取り組んでいきたい。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	他事業所の運動会に参加させて頂いたりイベントを開き学童へ挨拶へ行かせてもらったりと事業所から地域発信出来るよう活動を行っている。今後もっと広げていきたい。			△	